Dive Inフェスティバル2024開催

「持続可能な社会の実現」テーマに セッションと特別講演

ファーガソン氏

安藤氏

ロイズ・ジャパン、ＡＩＧジャパン・ホールディングス、エーオン、Ｃｈｕｂｂ損保、マーシュジャパン、マーシュブローカージャパンが参画する「日本におけるＤｉｖｅＩｎフェスティバル運営委員会」は、世界同時開催時期に合わせて「ＤｉｖｅＩｎフェスティバル２０２４」を9月25日、26日の２日間にわたり、東京都千代田区の紀尾井カンファレンスの会場とオンライン配信のハイブリッド型で開催した。今年のフェスティバルのテーマ「A Sustainable Future: The Next 10Years: 持続可能な社会の実現に向けて一次の10年への課題一」の下、ＡＩ、ウェルビーイング、介護などに焦点を当てた三つのテーマのセッションと二つの特別講演が行われた。フェスティバルには１３７２人が登録し、セッション・講演に合計８９３人（各イベントの参加者の延べ人数）が参加した。

「ＤｉｖｅＩｎフェスティバル」はダイバーシティとインクルージョンをテーマとする保険業界唯一の国際的な催しで、小規模の保険ブローカー（仲立人）から大手多国籍保険グループに至るまで、保険業界のさまざまな組織が一致団結し、毎年9月に世界各地で開催している。日本での24年のイベントパートナー会社には、ＡＩＧジャパン・ホールディングス、アリアンツ火災、エーオン、Ｃｈｕｂｂ損保、ギャラガーリージャパン、ＨＤＩ Ｇｌｏｂａｌ保険会社日本支店、Howden Group Japan Holdings、ロイズ・ジャパン、マーシュジャパン、マーシュブローカージャパン、ミュンヘン再保険日本支店、ＰｗＣ Ｊａｐａｎグループ、ＲＧＡリインシュアランスカンパニー日本支店、スイス・リー、ＴＢＷＡ、ＨＡＫＵＨＯＤＯ、東京海上日動、ＷＴＷ、チューリッヒ保険が参画しているほか、一般財団法人国際協力推進協会、上智大学がイベント協力を行っている。

ＤＡＹ１

日本におけるＤｉｖｅＩｎフェスティバルは、運営委員会委員長のロイズ・ジャパン代表取締役社長のイアン・ファーガソン氏によるオープニングスピーチで幕を開けた。同氏は「ＤｉｖｅＩｎフェスティバルは、ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ、ｅｑｕｉｔｙ、ｉｎｃｌｕｓｉｏｎの原則に基づいて毎年開かれる保険マーケットフェスティバルで、２０１５年にロンドンで初めて開催された。今年で10年目を迎え、日本では7年目となるが、これまでの成果を非常に誇りに思い、10周年を迎え、今こそ未来について考えたい」とあいさつした。

安藤優子氏が「多様性と共生の未来」で講演

▽特別講演①「多様性と共生の未来」

初日は、キャスター・ジャーナリストの安藤優子氏が「多様性と共生の未来」と題して特別講演を行った。安藤氏は「40年以上前、当時完全な男性社会だったジャーナリストの世界に足を踏み入れ、初めての取材で金丸幹事長（当時）のコメントを取ったにもかかわらず、『女性だからできた』と言われ悔しい思い経験について語った。

安藤氏は、１９９４年のアパルトヘイト廃止後の南アフリカで、初めて白人専用の学校に行ったにもかかわらずさまざまな排除に遭い1週間で退学をした女子生徒に、肌の色について質問したところ、「ただ違うだけ」という答えを聞き、問題をした。その後、『女性だから』と言わせないよう心に決め、ほぼ毎日取材に奔走したが、停戦前のカンボジアで女性である自分の体には重過ぎる男性用の装備を身に着けて取材をしたため、危険な目に遭遇した」ことなど、男女の公平と平等の

セッション①ではＡＩの活用で議論

は「違い」ではなく違いに対する「心の壁」であることに気付いたという。

講演の後半では、会場内およびウェブ視聴者からの多くの質問にも回答し、「もっと政治の分野での女性の参加が必要」などとコメント。安藤氏が「話したいことはもっとたくさんある」とする中、講演は終了し、会場は次回を期待する多くの拍手に包まれた。

ＤＡＹ２

▽セッション①「ＡＩとつくる10年後の未来とは？」

2日目最初のセッション「ＡＩとつくる10年後の未来とは？～ＡＩは我々の脅威かチャンスか～」では、起業家、エンジェル投資家として知られる成田修造氏が、幅広い経歴と年代で構成されたＡＩＧ損保の社員とパネルディスカッションを行った。モデレーターは沖山愛氏、パネリストは千田理緒氏、伊藤有美子氏、高橋勲氏が務めた。

はじめに、日本におけるダイバーシティー・エクイティー&インクルージョン（ＤＥＩ）の浸透度について意見を交わし、次にＡＩの歴史や最新の開発状況、企業内での活用実例や将来への展望と課題について、成田氏から見解を聞きつつ、保険業界全体や日常業務において今後どのようにＡＩを活用できそうか、意見を出し合った。後半では、ＡＩ、保険会社、ＤＥＩの三つが組み合わさることで生み出される新たな可能性について、特に高齢者や外国語対応、また、障がい者雇用の促進等も取り上げ、ＡＩをはじめとするテクノロジーの発展がもたらす多様性への期待を共有した。

セッション②のパネルディスカッションの様子

最後に、ＡＩによって保険業界が変革することで、より良い社会へとつながる可能性について言及し、そのためには将来へのビジョンとＡＩ活用の旗振り役、そしてまずは皆が実際に勇気を持って使ってみることが大切というメッセージで締めくくった。

▽セッション②「人生100年時代をウェルビーイングに生きる」

2日目2番目のセッションは、「人生１００年時代をウェルビーイングに生きる～幸せがもたらす拡張効果～」と題し、前半は一般社団法人ウェルビーイング心理教育アカデミー共同代表理事の渡邊義氏と渡邊奈都子氏が、ウェルビーイングの重要性や意義、またウェルビーイングを取り巻く昨今の潮流、ウェルビーイングを高める方法について講演した。その中で、幸せとウェルビーイングの違いや欧米とアジアの違い等について解説があり、数多くあるウェルビーイング研究の中から「感謝」をとりあげ、人と組織のウェルビーイングについて考える手掛かりが示された。

セッションの後半で

（11面へつづく）

(10面からつづく)

セッション③では仕事と介護の両立をテーマに議論

特別講演②では中島氏、藤田氏、平賀氏が対談

は、渡邊奈都子氏がモデレーター、渡邊義氏がコメンテーターを務め、パネリストにRGAリインシュアランスカンパニー日本支店の澤田和子氏、エーオンソリューションズジャパンの冨安昌子氏を迎えてパネルディスカッションが行われた。両氏は前半の講演から得た気付き、それぞれの職場での取り組みの紹介、また仕事をする中での「感謝な体験」についてエピソードを交えて語った。ディスカッションのまとめとして、感謝の輪を広げ、ポジティブなサイクルを作ることの重要性、相手との関係性によって感謝の伝え方が変わる点などが取り上げられた。

▽セッション③「未来を前向きに！仕事と介護の両立」

2日目3番目のセッションは、Chubb損保、HDI Global保険会社日本支店、マーシュジャパン、マーシュブローカージャパン共催の「未来を前向きに！仕事と介護の両立～ファミリーケアのリアルとヒント～」で、今後10年でより意識されるであろう介護をテーマに、基調講演とパネルディスカッションが行われた。

基調講演では、㈱ワーク&ケアバランス研究所の和氣美枝氏から、企業による仕事と介護の両立支援の傾向と両立に必要な基礎知識が共有され、介護しながらも誰にでも人生の選択肢はあるという考え方の下、知識・情報を得ながら「家庭環境・職場環境・自身の心身の環境」の最適化を図り続けること、また、そのための第一歩として「地域包括支援センター」を活用することが、繰り返し力強く訴えられた。

パネルディスカッションでは、介護経験者から未経験者までが集まり、漠然とした不安の共有、経験から得た両立生活の知恵や時間管理の方法、介護者本人のメンタルケアの重要性、遠方に住む高齢の親向けの介護準備・対策、将来の介護に関する話し合い方法や経済面の準備など、リアルな質問と率直なアドバイスが交わされた。暗くなりがちな介護問題を明るく語ることを軸に、現実的かつ前向きに取り組めるヒントが数多く示され、笑いがあふれる楽しいセッションとなった。

▽特別講演②「企業の成長に不可欠な女性の活躍とダイバーシティの推進」

2日目最後のセッションでは、積水ハウス取締役の中島好美氏が登壇し、「女性の活躍を推進する上での、現在の課題と今後将来にわたって個々に備えるべき素地や力」について講演した。中島氏は「企業の成長に不可欠な女性の活躍とダイバーシティの推進」をテーマに、自身の経験から「多様性を楽しみながらセルフブランドを開発し、発信力と構想力のスキルを高めること」の重要性について説明し、アンコンシャス・バイアスを除去するためにはコミュニケーションを円滑にすることが重要であることを強調した。講演に続いて、中島氏、マーシュブローカージャパンの藤田しのぶ氏、平賀暁氏の3氏による対談が行われ、自分と同質ではない人との交流や多様な人材の登用によって、新しい意識を組織に芽生えさせることが大切であることが示された。実践すべきこととして、「後悔しないために何にでも挑戦してみること」「好奇心を持ち続けること」「常に自身の発信力や表現力を高め、その発信にコミットメント（責任）を持つこと」などが挙げられた。これらを遂行することで必然的にセルフブランドは確立され、女性・男性の区別なく多様性の社会でも活躍できると結論付けた。

クロージングスピーチを行う平賀氏

2日間にわたるイベントの最後に、運営員会メンバーのマーシュブローカージャパン取締役会長の平賀暁氏からクロージングスピーチが行われた。平賀氏は「これからの10年、多様性を考える上で一番課題となるのはバイアスだと思う。今年もさまざまなテーマの中でどうバイアスを取り払うかについて皆で議論をしてきたが、一過性の取り組みではなく、ぜひ来年も再来年も、より多くの方にご参加・サポートいただき、良いイベントにしていきたい」と締めくくった。